

AIロボティクス戦略に基づく主要政策パッケージ

供給側と需要側の取組を一体的に支援し、現場データの蓄積とAIモデルの改善を高速で循環させ、需要と供給を同時に拡大
➡米中に並ぶ第三極として世界シェア3割超の獲得を通じて、2040年に20兆円の市場を獲得

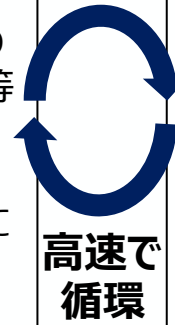
1. 供給側の取組

(1) 国産AIロボティクスの開発や現場実装を高速化する

- ロボットメーカー、部品メーカー、S I e r 等が連携しながら、各分野の現場実装を支える共通基盤等も活用し、機能モジュール・コンポーネントの開発や、インターフェース、データ形式、安全論証等の標準化・共通化を進めるなど、汎用性・拡張性の高いオープンな開発プラットフォームの構築を支援
- 多用途ロボットや重要なコンポーネント（モーター、減速機、センサー等）等の量産化に向けた設備投資を支援

(2) 現場で賢く動くための世界最先端の頭脳をつくる

- 海外トップ機関とも連携し、国産マルチモーダル基盤モデルの開発支援により、世界モデルを含む先端的な技術基盤を構築
- AI RoA（AIロボット協会）による国産ロボット基盤モデルの開発を支援し、27年6月頃にベータ版をオープンソースで公開し、順次アップデート
- GENIAC（計算資源の利用や、データ収集用のロボット開発・購入等を補助）を通じて、データファクトリーを含めた現場データのAI-ready化やロボット基盤モデルの開発を支援



2. 需要側の取組

(1) AIロボットがともに働く現場を当たり前にする

- 「AIロボティクス実装ロードマップ」に基づき、18分野(注)ごとの目標導入台数を実現し、2040年までに1,000万台規模のAIロボットを国内導入
- まずは、点検（屋外・半屋外）、点検（屋内）、搬送（屋外・半屋外）、搬送（屋内）、清掃、入出荷/パレタイズ、ハンドリング、溶接・塗装・加工の8つの先行対象領域を中心に、AIロボットの導入や導入環境整備を支援
- 公的部門による災害対応、建設・土木、防衛、研究開発等において、アンカーテナンシーとして継続的な官需を確保

(2) AIロボットが安心かつ安全に働きつづける社会をつくる

- プライバシー、セーフティ、セキュリティの確保を踏まえた安全性認証制度等を整備するとともに、各支援策はこれらと連動する形とする
 - A I ロボティクスの市場形成・実装・運用を担う人材を育成支援
- (注)製造業（多品種少量生産）、造船、物流（倉庫・輸配送）、建設・土木、建築、インフラ保守、小売、宿泊業、飲食・食品製造業、医療、介護、警備業、農業、林業、廃棄物処理業、災害対応、警察活動、防衛

3. 供給側と需要側の取組を高速で循環させる触媒 ～世界的なAIロボティクスの中核拠点（Center of Excellence : CoE）の整備～

- ・ ハードとソフトの専門家や各産業の大口需要家等が参画しながら、製造・物流等の産業現場や災害・廃炉等の過酷環境を再現したモックアップ環境や開発・検証・試験設備を備えたテストベッド等を構築し、ロボットを導入・運用できる物理空間を整備。また、大量のデータを収集・加工・管理し、学習・評価ができるサイバー空間（計算資源、データ基盤、高速・大容量通信等）を整備することにより、両者を一体運用する中核拠点を構築・運営し、研究開発、データ収集とAIモデル改善、安全性の評価、標準化、人材育成等を進める。